

明日の神田川を一緒につくろう

神田川は、東京の環境問題、とりわけ水と緑の創出構想のなかで重要な位置を占め、大きな可能性をもっています。その水辺環境のあるべき未来を考え、学び、形づくっていくと、私たち神田川ネットワークは設立以来 20 数年に渡って、シンポジウムの開催や現地調査、水辺ウォーキング、関係行政機関への提言などを行ってきました。

会の運営や活動の企画・実施は、すべて会員の総意によって行われています。入退会はもちろん、さまざまな事業への参加は自由、発言も個人の責任において自由という開かれた会です。

神田川水系の水辺復権と新しい未来に向かって、あなたも一緒に活動しませんか。



現地視察ウォーキング



神田川サミット

神田川宣言

東京の中央部を流れる神田川水系は、江戸から明治にかけて神田上水として飲料水を供給し、また農業用水や舟運路としても利用されてきた。

さらに神田川は、茗溪と呼ばれた御茶ノ水の渓谷や井の頭池などのすぐれた景観に恵まれ、螢狩り、舟遊山、花見、水遊びなどの行楽の場としても親しまれてきた。このように人々の暮らしとともに歩んできた神田川は、かけがえのない歴史と文化を育み、東京にとって母なる川といえよう。

その神田川も、今日では都市問題を多く抱えた東京という大都市を流れる典型的な都市河川に姿を変えてしまった。神田川に集う私たちは、水害や汚染がなく、清冽な水が流れ、美しい景観が保全され、水遊びができ、生き物たちが棲みやすい神田川になることを願う。

私たちのまちの顔として誇れる神田川にするために、一人ひとりがその実現に向かって行動してゆくことをここに誓う。

1991年6月23日
小石川後楽園瀟湘亭にて
神田川サミット参加者一同

神田川ネットワーク

東京都杉並区阿佐谷南 1-15-6 和久井ビル2F
〒166-0004 Tel/Fax (03)5377-1070
E-Mail: kandagawa_net@yahoo.co.jp

神田川水系を地域のオアシスに！

神田川ネットワーク

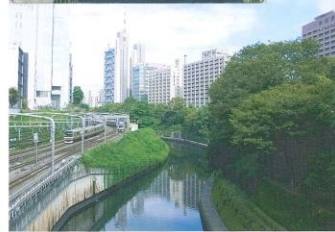


井の頭池



掛橋 (広重画)

御茶ノ水渓谷



神田川水系の明日を考え、語り合う団体・市民の連合です

神田川には東京の歴史と文化が息づいている

東京の中心部を西から東へ貫流する神田川は、全長 24.6km。流域面積 105km²。支流として善福寺川や妙正寺川、江古田川を擁しています。その周辺にはさまざまな名所旧跡や、由緒ある社寺等があり、300 を超える橋の名にも興味深い由来があります。こうした神田川水系の歴史と現在を見つめ、未来の姿はどうあるべきかを考えようと、関係するさまざまな団体・市民が集って結成されたのが「神田川ネットワーク」です。

より美しく、自然豊かな神田川に

いま、神田川の水質は格段に改善されて、初夏には鮎の遊上も見られるほどになり、洪水も減少。沿岸には遊歩道もかなり整備されて、水面に人々の目が向けられるようになりました。しかし、神田川を「地域のオアシス」というにはまだ十分ではありません。江戸東京の歴史と文化を育んできた神田川が、美しい景観と憩いの水辺になり、子どもたちが釣りや水遊びができるまでに改善したいと、私たちは願って活動しています。

神田川ネットワークの活動

設立 1991年6月1日「神田川サミット実行委員会」設立。1997年12月1日「神田川ネットワーク」に名称変更。

活動 ● 流域で活動している団体・市民が集う「神田川サミット」を毎年主催し、河川環境の改善に関するシンポジウムやフォーラムなどを通して、調査研究や行政への提案、情報交換などを行っています。

● 神田川水系および周辺の水辺における外来魚調査を毎年実施し、行政への報告・提言を行っています。

● 神田川流域と周辺地域での植栽・緑化活動と、井の頭池における水生野菜栽培による水質浄化実験を行っています。

● 神田川水系のすべての河川や暗渠（旧河川）を実踏し、歴史・文化・環境・観光などを網羅したガイドブック『神田川再発見』を刊行（2008年12月・東京新聞出版局刊）しました。

● 市民と行政の意見交換の場である「神田川上流懇談会」に、第一期から連続して参加しています。

● 東京の川沿いウォーキングを随時開催して知識を広げるとともに、会員の交流と健康増進に努めています。

神田川水系全図



水質・生態系調査



植樹活動

